

編集者の 独り言

私が最初に編集後記を執筆した2020年3月は、世界保健機関（WHO）が新型コロナウイルスの流行をパンデミックと認定し、その影響が世界的に拡大しつつある頃でした。二度目に執筆した2022年4月は国際ガラス年、世界鉱物年の最中であり、国立科学博物館（科博）が開催していた宝石に関する特別展について書かせていただきました。その科博は、標本資料を収集・維持・保管する資金が光熱費の高騰などを受け危機的な状況にあるとして昨年8月「地球の宝を守れ」を合言葉にクラウドファンディングを行い、多くの人々の支援により目標（1億円）を大きく上回る約9.2億円を集めました。文化庁の博物館総合サイト（<https://museum.bunka.go.jp/>）によれば、我が国には5700を超える博物館（博物館法で規定される登録機関は約1300余り。総合博物館に加え歴史、芸術、民族、産業、自然科学などの博物館や動物園、水族館、植物園なども含む）があり、厳しい経済環境の下、様々な設置者が工夫を凝らし多彩な展示活動を行っています。

多くの博物館では、専門家が大変な苦勞をされ収集保存した太古から現在に至るまでの地球、宇宙、自然、生物、人間の歴史と営みの記録も含めて企画展示を行ったり修復・保管・分析をしたりしています。そうした展示は、自分の専門や仕事に関連するものだけで

はなく多様な情報にも触れることができる貴重な場であり、自分の興味の範囲を広げ、日々の暮らしをより楽しく豊かにしてくれています。

最近、保管されてきた古人骨から、従来は困難であったDNA情報を取り出すことに成功、人類の移動の歴史が詳細に判明し、博物館の展示も更新されつつあります。日本人の起源とはという身近な謎解きにも大きな前進がみられ、今後の展開がますます楽しみです。

夏目漱石を師と仰ぐ寺田寅彦に師事した中谷宇吉郎は世界で初めて人工的に雪を作ったことで知られ、その中谷を記念した雪の科学館（石川県）を見学した際、シリコンの結晶成長の話が書かれていて驚きました。その雪の結晶を日本で初めて顕微鏡で観察し図鑑（雪華図説）に著したのが古河藩主土井利位で、家老鷹見泉石の蘭学資料とともに古河歴史博物館（茨城県）に展示がありました。科学のみならず偉人、歴史、文学、芸術、デザイン、建築に至るまで鎖のように多くの事柄が繋がっており、好奇心をくすぐります。

今後は遠隔地から全世界の博物館、美術館の持つデジタル化情報を入手し味わうことができる仕組みもさらに充実することでしょう。とともに全国の博物館、美術館で直に本物と接する楽しみも大切にしていきたいと思っています。（和田宏明）

カラー写真ご提供のお願い

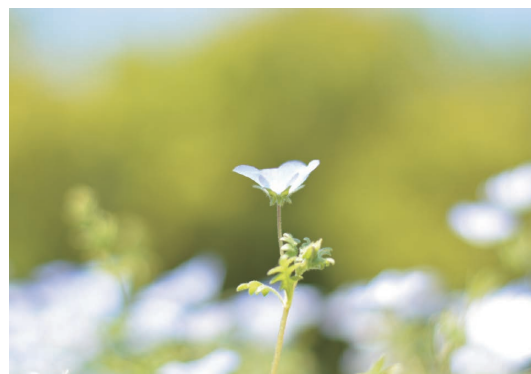
化工誌編集委員会

本誌の目次や編集後記下に掲載するカラー写真を広く会員の皆様からのご投稿をお願いしています。ご投稿いただいた写真は編集委員会で適宜選択して使わせていただければと考えています。ご投稿の際にはごく簡単な説明をつけていただき、電子ファイルの場合には高解像度のもの（300DPI以上）をお送り下さい。

以下のような写真のご提供をお待ちしています。

1. 季節感のあふれた風景・草花・野鳥・動物の写真など
2. 化学に関する写真—カラフルな物質、化学模型、電顕写真、実験機器、化学プラントなど

送付・問合せ先：101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5
日本化学会 学術情報部 「化学と工業」誌担当
FAX(03)3292-6319 E-mail: kakoshi@chemistry.or.jp



ネモフィラ 兒玉拓也

[正誤訂正]

本誌 77 巻（2024）3 月号 159 ページ「2023 年度日本化学会 各賞受賞候補者選定結果一覧」で第 72 回科学技術賞の受賞者のお名前に誤りがありました。お詫びの上、下記のように訂正いたします。

【誤】松村 和行，加藤 圭吾，龍田 佳子，金森 大典，桂田 悠基（東レ(株)）

【正】松村 和行，加藤 圭悟，龍田 佳子，金森 大典，桂田 悠基（東レ(株)）